

| | | | |
|--|-------------|------|------|
| 授業科目名 | 共生のための教育 | 単位数 | 2 |
| 担当教員名 | 天野 一哉、永井 礼正 | 担当形態 | 複数教員 |
| 実務内容 (実務家教員の場合) | | | |
| <p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 ・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>共生社会を構築するための教育とは何か、共生と教育の関係を考え、課題を明らかに、解決策を探る。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>「共生入門」「共生科学概説」を受け、専門科目、「卒論」「共生科学」へ繋げるため、教員、学生同士の対話により、共生教育を考える。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：国の教育施策や世界の教育の動向</p> <p>第2回：教員としての子ども観、教育観等についての省察</p> <p>第3回：子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見</p> <p>第4回：子どもの生活の変化を踏まえた課題</p> <p>第5回：共生をどうとらえるか</p> <p>第6回：共生社会をどうとらえるか</p> <p>第7回：共生教育をどうとらえるか</p> <p>第8回：課題設定（自己）</p> <p>第9回：課題設定（グループワーク）</p> <p>第10回：仮説立案（グループワーク）</p> <p>第11回：調査（グループワーク）</p> <p>第12回：分析/考察（グループワーク）</p> <p>第13回：プレゼンテーション（グループワーク）</p> <p>第14回：省察</p> <p>第15回：展望</p> <p>定期試験</p> | | | |

スクーリングでの学修内容

第1回から第7回（自己学習）までの総括。教員からの問題提起を踏まえ、第8回から第13回までをグループワークによって実施する。

教科書

教育の最新事情/現代教育の動向と課題 教育出版 2020年

参考文献

各自で「共生と教育」および自己のテーマに関する学術的専門書・論文を選択し、熟読熟考すること。

推薦図書

(1) 天野 一哉 (2013) 『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか - 格差社会の超エリート教育事情』中公新書ラクレ

(2) 苫野 一徳 (2014) 『教育の力』講談社 I

(3) 岡田 敬司 (2014) 『共生社会への教育学—自律・異文化葛藤・共生』世織書房

学生に対する評価

スクーリング評価 (35%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (40%) を総合して評価する。